

長唄 召せや

長唄 鶴の寿

長唄 菊づくし

長唄 関の小万

端唄 紅葉の橋

長唄 宝船

長唄 雨の五郎

柴田紗奈

大曾根喜久

青木夕夏

北田えり

藤田明里

廣田みどり

大村莉愛

船津香織

【解説・みどころ】

「葱売り」とも称される本曲は、西川流の手ほどきの踊りとして用いられています。葱籠の小道具を使い、初めて日本舞踊に接する幼子にも興味を抱くことができるような明るい曲です。

仙人が酒代として壁に描いた黄色い鶴が唄にあわせて舞ったため、酒屋に巨万の富をうんだという、中国の伝説を下敷きにして作られた作品です。

花柳流の流祖が屏風の詩章に節をつけ、初心入門者の手ほどきに用いた作品で、現在では各流の子供の基本舞踊や初舞台に用いられています。

本作は花笠を両手に持って踊るテンポの早い曲で、歌詞はさまざま「笠」に花や雪を唄いこんでいます。長唄という名がつけられぬ時代の長唄として貴重な作品です。

秋から冬にかけての季節の移ろいを詠った作品です。天の川の故事を使い掛詞で紡ぐ歌詞は、江戸時代幕末から明治にかけて活躍した歌舞伎狂言作者の河竹黙阿弥の作詞です。

古来より、良い初夢を見るために、宝船の絵を枕に敷いて寝るといふ風習がありました。本曲は、七福神の神が乗り合っているその宝船の様子が詠われている、華やかな舞踊曲です。

江戸の庶民に三大仇討ちとして有名だった曾我五郎が、恋人の鎌倉の遊女の元へ、雨の中駆けつける様子を仇討ちへの勇ましい心と交互に詠った作品です。

清元 出雲梅

長唄 千代の寿

長唄 新曲浦島

清元 文売り

長唄 あやめ浴衣

長唄 島の千歳

大和楽 夢

長唄 黒髪

高橋和子

松本一花

野村水夏

西川翠美

西川新

西川扇六彰

西川翠花

西川翠志萌

西川翠扇 会主

初代清元齋兵衛作曲。文政の頃、歳初めの弾き初めに発表された曲で、初春を梅によせてお祝いしたお目出度い作品です。

鶴を主題に、幾千代をお祝いする御祝儀曲です。二羽の友鶴がやがてめでたい尉と姥になるでしょうと歌われています。

新舞踊運動を提唱した坪内逍遙が発表した楽劇「新曲浦島」の序曲で、浦島伝説にゆかりのある澄の江の浦の雄大な海原を描写した、変化に富んだ作品です。

男女の良縁を願う恋文を売り歩く文売りは、一人の男を巡って二人の傾城が喧嘩沙汰になった様子を話して聞かせます。この「しゃべり」を清元の舞踊に仕立てた本作は、台詞を挟みながらの踊りが眼目です。

夏を代表する長唄の一つで、飾り兜・雲の峯・河風・花あやめといった初夏を感じさせる言葉が詠まれている。隅田川で芸者が舟遊びをする光景が描かれています。

「島の千歳」とは白拍子の元祖名前で、平安時代末期に起こった歌舞を演ずる女性のことです。前半が舞を主とした格調と典雅な風情を見せ、後半では踊りの楽しさを醸し出している明るく上品な作品です。

大和楽とは邦楽に洋楽の発声をとりに入れた三味線音楽です。大和楽「夢」は、娘の夢・蝶のように羽ばたく恋心を表現した作品です。

伊豆に流された源頼朝は、身元引受人の娘・辰姫と恋仲になりますが、辰姫が身を引き、北条政子と結ばれます。ひとり髪を梳きながら嫉妬と苦悩に苛まれる辰姫の心を描いた作品です。

